

2022年5月24日

各 位

上場会社名 東亜建設工業株式会社
代 表 者 代表取締役会長 秋山 優樹
(コード番号 1885 東証プライム市場・札証)
問合せ先責任者 管理本部総務部長 木村 徹也
(TEL：03-6757-3800)

取締役会の実効性評価結果の概要について

当社は、社会価値の継続的な創出と企業価値の向上のためには、コーポレートガバナンスの強化が重要であると認識しており、当社「コーポレートガバナンス・ガイドライン」において、取締役会の役割・責務として、経営全般に対する監督、経営の公正性・透明性の確保、経営陣の指名、評価及びその報酬の決定、重大なリスクの評価及び対応策の策定並びに重要な業務執行の決定等を規定し、その実効性を担保するために、各取締役への定期的なアンケート等を踏まえた分析・評価を行い、その結果の概要を開示することとしております。

また、当社は、「東亜 ESG/SDGs 行動計画」における重要指標（KPI）として、第三者による取締役会の実効性評価の実施を掲げており、今回、アンケートの設計段階より社外アドバイザーの意見を採り入れ、質問項目や評価分析方法の見直しを行いました。

このたび、2021年度に開催された取締役会について実効性の評価を実施し、その結果が取締役会において報告・審議されましたので、以下のとおり、評価結果の概要を公表いたします。

1. 実施内容

評価対象：2021年4月から2022年3月までに開催された取締役会（計16回）

評 価 者：全ての取締役（計12名、3月末時点在任）

（内、監査等委員である取締役4名、その内独立社外取締役3名）

評価方法：4段階評価及び自由記入によるアンケートの後、その集計結果を踏まえた意見交換を実施し、取締役会にて報告・審議。

評価項目：・取締役会の規模・構成
・取締役会の運営
・指名報酬委員会の運営
・株主・投資家との関係
・取締役会での議論

2. 分析・評価結果の概要

(1) 結論

取締役会の運営状況、指名報酬委員会の運営等は、概ね適切であり、取締役会は有効に機能していると評価しました。また、株主・投資家とのコミュニケーションについても肯定的な評価が多く、昨年と比べて改善が見られました。社外アドバイザーからも取締役会は機能しているという評価を受けました。

一方で、取締役会での議論については、まだ改善の余地があるという意見もあり、次期中期経営計画の策定へ向けて課題を共有する機会にもなりました。確認された主な課題は次のとおりです。

(2) 確認された主な課題

項目	今回評価に基づく課題
取締役会での議論 (経営方針、経営戦略)	企業価値の向上やESG経営について具体的な議論を重ね 深化させること、次期中期経営計画の策定に向けた自由 議論の場を設けること
取締役会の規模・構成 (スキルマトリックス)	どのようなスキルが取締役に求められるのか、必要とさ れるスキルについて議論を更に充実させること
取締役会での議論 (サクセッションプラン)	更なる充実を図るために、制度面も含めて議論、検討する こと

3. 前回（昨年度）の取締役会の実効性評価結果

前回評価に基づく課題	改善の具体例
中長期的な企業価値向上に 資する議論の深化	企業価値の向上に資する資本政策についてのフリーディ スカッションの実施
当社「ESG経営基本方針」に 基づく中長期の視点に立っ たESG経営への取り組み	事業に関わるリスク・機会を見極め、中期経営計画に落と し込み、マテリアリティ（重要課題）へ取り組むPDCAサ イクルを回すことにより、経営目標の達成と企業価値の 向上を目指している。

4. 今後の取り組み

今回の実効性評価の結果を受け、上記の課題解決のための施策を講じることで、取締役会のさらなる審議の充実と実効性の向上に努めてまいります。

以上